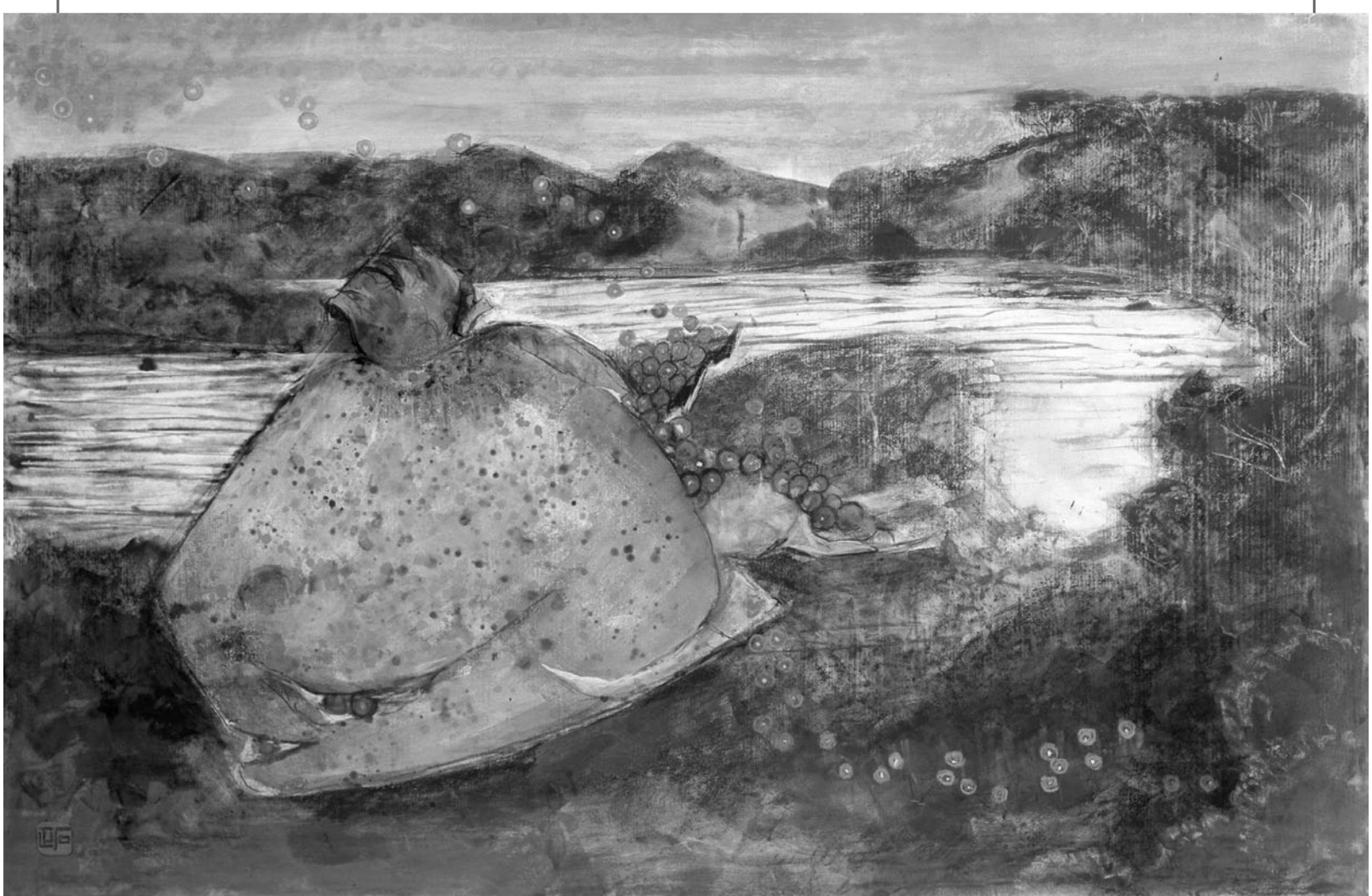
ふるさと石見で
培った
子ども時代の
素直な感性を
今も失わずにいる
それがわたしの
作品を作る上での
原点なのだと
思います



石本正「柘榴」2007（平成19）年

※石本正記念展示室「2019年度・石本正作品選2」より

アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース
SEKISHO ART MUSEUM
MUSEUM NEWS
Summer 2019
No. 141

◆石本正記念展示室◆ ２０１９年度「石本正作品選２」より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

【特集展示】
心埋める場所
～石本正　ふるさとへの思い～

現在の作品選では、画家・石本正が「心埋める場所」とも語っていた《故郷》に対する思いと共に、画家として歩んだ長い道のりの中で確信していった「地方にこそ真の文化が育まれる」という信念を紹介する特集コーナーを設けています。

「サン・ミニアート」1988（昭和63）年

心を感動させる「真の文化」との出会い

「感動こそ我が命」という言葉を残すほど、石本正の絵の根底には様々なものから得た「感動」が潜んでいます。

なかでも彼を特に魅了したのが、中世ヨーロッパのロマネスク美術でした。ロマネスク美術の絵画や彫刻は、そのほとんどが文字を読めない民衆に信仰の素晴らしさを伝える手段として作られたため、聖地巡礼の旅の途中にある田舎の教会にある事が多く、何百年も時を経た現代においても、地元住民によって「地域の誇り」として大切に守り継がれています。石本はそれらを求め、どんな辺鄙な場所であろうと綿密な下調べを行い熱心に足を運びました。このヨーロッパを巡る旅は、一九六四年から二十年間で九回、日数は延べ約五〇〇日にも及びました。

旅のなかで、彼は「たとえ交通不便なところでも、時流に乗っていなくても、そこに本物があれば、人は必ず時代を超えて求めて訪ねていく。それこそが本物の文化なのだ」と強く考えるようになっていきました。

また、これらの旅行で行った国々の中でも、特に画家が好きな国がイタリアでした。

「どの街もなつかしさが漂い、初めて行ったような気はしない」「石本正　我がイタリア」一九九一（平成三）年

緑の中に赤茶色の屋根の建物が並ぶイタリアの古い街並み。それは、石見地方の豊かな自然に囲まれた赤茶色の石州瓦の集落の様子にも印象が良く似ており、彼の心の中にある故郷の原風景と知らず知らずのうちにイメージが重なっていたのかもしれません。

憧れの地で確信した、地方における「本物の文化」の在り方と、心に湧き起こる郷愁。旅先での全ての経験や思いがひとつになり、やがて数年後に故郷に建つ石正美術館を舞台とする「地方における新たな文化の創生と発信」の実践にもつながっていきます。

石見からの新しい芸術文化の発信
～塔天井画への夢と実現～

二〇〇一年四月に石正美術館が開館しました。赤茶色の屋根に高い塔のある美術館の外観は、「流行にとらわれない、こじんまりとした美しい建物。山々に取り囲まれた自然を活かし、日本の古い寺院建築、ヨーロッパの中世教会などを活かした親しみのある美術館であって欲しい」という石本の願いを受けて、友人でもある京都大学名誉教授・金多潔氏が設計したものでした。ある時石本は、美術館入り口にある高さ十四ｍの塔の最上階に上がり、《天井画》を制作することを提案しました。

彼の言葉によると、ロマネスク時代のヨーロッパでは、石造りの建物を建造する際に、時には領主も一緒になって石を引っ張り、石積みをしたそうです。そうやって地域の皆で力を合わせて作られた建物が、今も変わらず日常生活の中に溶け込み大切にされている。彼が天井画の制作においてやりたかったことは、このロマネスク時代に作り上げられたようなものをこの石見の地に作り、新たな文化の在り方として伝えていきたい。ということでした。

この発案から始まった天井画制作事業は、数年間の準備期間を経て二〇〇九年から二〇一〇年の二年間にわたって行われました。実寸の四分の一の模型に石本が下絵を描き、それを元にして教え子の画家や、当時客員教授をしていた京都造形芸術大学の大学院生、そして地元住民など多くの人の手によって天井画が制作されました。完成までに天井画制作に関わった人数は、延べ八五七名にもおよびました。

天井画が完成した時、画家は次のように語りました。

「自分は田舎者だからロマネスク美術を理解できたと思う。（中略）その時代の聖堂の多くは、フランスやイタリア、スペインの片田舎にある。僕らが訪ねていくと、近所の農婦が入り口の鍵を持って来て、日本からやって来たことに驚き、喜んで鍵を開けてくれたこともあった。古びた石作りの建物の中で傑作と出会った感動は、今も忘れることができない。今回描いた天井画は、決して綺麗ではない。でも、そこがいい。多くの人の思いが込められた作品だ。これが石見で生まれたことが素晴らしい」「石見美術第八号」二〇一一（平成二十三）年より

この天井画は、画家としての長い旅路の末に、石本が故郷に残した思いを象徴するものとなりました

天井画は、美術館受付に申し出ていただければ、いつでも学芸員がご案内します。ご来館の際にはぜひご覧ください。

▶上／完成した天井画
下／地域の人達による天井画制作の様子

◆企画展示室◆　第９回「石州和紙に描いた日本画展」より

今年で九回目を迎えた「石州和紙に描いた日本画展」。今年は二十五名の画家の新作をご覧いただくことができます。

「石州和紙に描いた日本画展」は、今年で九回目を迎えました。本展は、画家・石本正（一九二〇～二〇一五）が気に入って作品を描いていた《石州和紙》の魅力を、少しでも多くの方々に感じていただきたいという思いで続けてきました。

今年は二十五名の作家さんにご出品いただいています。

制作する和紙の種類を毎年変えて素材や厚みなどによる表現の違いを探る方や、自分の表現に合った紙を使い続ける方など、作家によって制作に使う和紙に対する考え方が違っていて、「石州和紙に描く」というひとつのテーマに多くのバリエーションが生まれる事に毎回驚かされます。

ここでは、今回の出品作品の中から二点の作品を、作家自身の言葉と共にご紹介します。

岸本裕子「サガリバナ幻影」

【使用した和紙】楮紙二双（石州和紙久保田）

岸本裕子「サガリバナ幻影」

六月半ばから七月にかけて、南国では「サガリバナ」の最盛期、「沢藤」とも呼ばれるそうで、一夜限りの儚い花です。

夜明け前、西表島の民宿のおじさんに、小さな船を出してもらいました。芳香が漂い、辺りが明るくなるにつれて、川面に花が降りしきる幻想的な眺め、夢のような不思議な時間でした。

【和紙の感想】

和紙独特の色合い、風合いがまことに美しく、ドーサを引くことも躊躇します。先ず、ごく薄いドーサを引きました。ドーサの抜けた箇所も気にせずに、色を置きましたが、思った以上に色は乗りました。上の層の紙が少しももけました。人物の部分に、少し濃い目のドーサを重ねました。描きにくいという感覚はなくて、発色がきれいな気がします。ドーサを工夫することで、新しい表現が可能になるかなと思いました。

谷保玲奈「夏の蝶」

【使用した和紙】

石正紙二双（石州和紙久保田）

以前浜田市に遊びに行かせて頂いたことを思い出しながら、夏の展示ということを考えて、蝶を思い出した。

暑い中でも蝶は飛ぶ。

蝶は花に色がなければそこに蜜があることを知らず、それを吸うことはない。派手な造花でもそこに甘いものがあればそれは本物の花でなくてもいい。

それを目の当たりにした私は少しの怖さと驚きを感じた。

谷保玲奈「夏の蝶」

【和紙の感想】

厚みと弾力がある和紙。

水の含みが多く、また雲母によって表面上にすでに一層絵の具をかけたように後から乗せる絵の具の滲みが奥深く滑らかだと感じた。またそれによって絵の具の伸びが滑らかで筆が進む。

しかし、荒い岩絵の具を乗せるにはドーサが不可欠でその加減が難しく、私にはその紙本来が持つ美しさを技量不足で充分に活かしきれなかった。

もっとこの紙を活かした色々な表現の可能性を感じる。

展示室の様子

◆「石本正作品選２」（石本正記念展示室）
【会期】十月十四日（月・祝）まで

◆第９回「石州和紙に描いた日本画展」（企画展示室）
【会期】八月十八日（日）まで
【出品作家】石本正、池庄司淳、池田知嘉子、上野富二郎、内海福溥、雲丹亀利彦、奥村美佳、落合浩子、梶岡百江、川﨑麻央、岸本裕子、桑野むつ子、坂内圭、庄田達生、多留裕二、谷保玲奈、田村紀美枝、中原麻貴、中村文子、西久松吉雄、西久松綾、藤本直司、牧野良美、宮川典子、吉川弘、吉村和起

※ドーサ／にじみを防止するため和紙に塗布する液体。

碧い石見の芸術祭 2019

日本画大賞展 石本正

第5回

全国の美術大学の優秀作品が一堂に並ぶ
最大規模の学生日本画展

2019 8月27日(火)～10月14日(祝)

開館時間／9:00～17:00　休館日／月曜日（祝日の場合は翌平日休館）

浜田市立石正美術館　企画展示室・ギャラリー

審査員（敬称略/50音順）　土屋 禮一（つちや れいいち）、中野 嘉之（なかの よしゆき）、西久松 吉雄（にしひさまつ よしお）、平坂 常弘（ひらさか つねひろ）

観覧料
《当日券》一般 700(600)円　高校・大学生 300(240)円　中学生以下 200(160)円
《前売券》一般 500円　◆ローソン各店（Lコード 62519）　◆中国新聞社読者広報部、中国新聞各販売所（取り寄せ）
※（ ）内は20名以上の団体料金です
※上記の料金で館内全ての展示をご覧いただけます

9/16 敬老の日 は、年内に65歳以上になる方の **観覧無料**
（昭和29年12月31日以前に生まれた方）
受付にて年齢確認できるもの（健康保険証、運転免許証等）をご提示ください。

関連行事
◎オープニングセレモニー…8月27日(火)
◎授賞式・合同批評会…9月15日(日)

お問合せ
浜田市立石正美術館（石本正 日本画大賞展 事務局）
〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場589番地　FAX.0855-32-4389　**TEL.0855-32-4388**
E-mail sekisho@mx.miracle.ne.jp　HP http://sekisho-art-museum.jp/

主　催：芸術と文化のまちづくり事業実行委員会、浜田市立石正美術館、浜田市、浜田市教育委員会、公益財団法人浜田市教育文化振興事業団、中国新聞社
後　援：山陰中央新報社、石見ケーブルビジョン、ひとまろビジョン

出品大学

札幌大谷大学
東北芸術工科大学
金沢美術工芸大学
金城大学短期大学部
筑波大学
文星芸術大学
東京藝術大学
武蔵野美術大学
多摩美術大学
女子美術大学
常葉大学
名古屋芸術大学
名古屋造形大学
成安造形大学
京都精華大学
京都造形芸術大学
嵯峨美術大学
嵯峨美術短期大学
京都市立芸術大学
大阪芸術大学
大阪成蹊大学
奈良芸術短期大学
倉敷芸術科学大学
尾道市立大学
広島市立大学
比治山大学短期大学部
九州産業大学
大分県立芸術文化短期大学
崇城大学
沖縄県立芸術大学

30校（順不同）

第6回 小さな世界展

小さなフレームの中に、大きな世界アリ。

あなたの自由な作品大募集！

鑑賞者に「小サイズの作品の中で生まれる世界観」を楽しんでいただくことを目的として開催します。作家の交流の場づくり、表現の面白さ、多様さを伝える場となることを目指します。皆さまの熱い想いのこもった作品をお待ちしています！

受付期間　2019 10/1(火)～10/27(日)

受付場所／浜田市立石正美術館

【受付時間】9:00～17:00　※7日(月)・15日(火)・21日(月)を除く

- テーマ…自由（平面、立体など表現も自由）
- 出品規格…縦40cm×横40cm×高さ40cm（額縁込のサイズ）以内の作品とします。
- 作品搬入…出品票とともに作品を搬入してください。（宅配便、郵送でも可）

出品料無料

11/13(含) 14:00～ 作品展示作業　出品者の方のお手伝いをお待ちしています！

展示期間　2019 11/14(木)～12/4(水)

会場／浜田市立石正美術館 ギャラリー

【開館時間】9:00～17:00 ※最終日は15:00
（月曜休館・祝日の場合は開館・翌平日休館）

観覧料 無料

11/23(土) 14:00～15:00　ギャラリートーク　お気軽にご参加ください！　参加無料

出品票、出品要項は石正美術館にて配布します。もしくは石正美術館ホームページからダウンロードできます。

お問い合わせ
石正美術館 TEL **0855-32-4388**

主催/芸術と文化のまちづくり事業実行委員会（浜田市立石正美術館）

学芸員の部屋

塔の天井画のこと

現在開催中の「２０１９年度・石本正作品選２」では、石本先生がふるさとの地に残した思いを象徴する《塔の天井画》について紹介するコーナーを設けています。

天井画は、建物に関する法律上の決まりなどから、一般のお客様がいつでも自由に出入りして鑑賞することができないようになっています。そのため受付でお申込みの上、私たち学芸員がご案内をするという方法でしかご覧いただくことができません。ただ、自由に鑑賞できないという不便さもあって、完成してから九年が経つ近年はご覧いただける機会が少なくなってきていたので、再びしっかりと興味を持ってもらえるよう展覧会の中で改めて触れる事にしました。

天井画について紹介するコーナー（「2019 年度・石本正作品選 2」より）

天井画制作事業が行われたのは、第一期が二〇〇九年、第二期が二〇一〇年です。翌年の二〇一一年に当館の学芸員になった私は、実際の制作には関われていません。ただ、この天井画に込められた石本先生をはじめ多くの方の思いを伝える事は、私たち学芸員の大切な役目でもあるので、美術館の関係者や当時制作された方からお話を伺ったり、そのほか当館に残っている資料などで学びながら、いろんな場面で天井画についてお話しをしてきました。もともとトークがあまり得意でない私の技量では「今日はうまく伝えられなかったなぁ」ということもよくあります。それでも、ここに込められた先生の思いに感動して涙まで流してくださる方も時々いらっしゃるので、今後も石正美術館の象徴的存在である天井画の事をしっかり伝え続ける努力をしていけたらと思っています。

少し前から、天井画の表面にあまり思わしくない変化がみられるようになってきました。ほんの一部ですが、絵具がめくれ上がって剥がれた箇所が出てきているのです。主に壁の側面で、塗るときに絵具が垂れ、しずく状に溜まったまま固まった部分がそのようになってしまっているようです。絵具の濃度がその部分だけ濃くなったためと考えられますが、今後そういう部分から周囲に向けて絵具の剥がれが広がっていくことは、充分起こりうることだと考えています。

絵の具が剥離している部分

当館の天井画の画材は、材料学や保存修復など様々な分野の専門家を交えて検討されたものが使われています。中世ヨーロッパ時代のフレスコ画の技法で描かれた壁画のように何百年も持たない事も、制作に取り掛かる前からわかっていて、石本先生も「剥がれた時には、また描けばよい」とおっしゃっていたようです。

学校の鑑賞授業などで、小学生や中学生などの子供たちを天井画に案内する時には「何十年か先に《天井に絵を描きませんか》という石正美術館からのお知らせを見たら、ここに戻ってきて描いて下さいね」といつもお話ししています。その頃には、私達職員の世代も変わっていることでしょう。過去の人が作ったものを、今の人達が大事にして、また未来の人が手を加えながら大事にしていく。石正美術館の天井画はそのような存在であれば良いのかな、と思っています。

まだご覧になったことがない方も、これまでに何度も見たという方も、ぜひ今回の展覧会と合わせて天井画もご鑑賞ください。心をこめてご案内いたします。

（主任学芸員　横山由美子）

2019 石正美術館

アートな夏休み

石正美術館で「アートな夏休み」を楽しもう！
家族やおともだちとあそびにきてね！

8/10（土）「石州和紙×日本画材で色あそび！」

「石州和紙に描いた日本画展」関連イベント

13時～16時　参加費：1,000円
講師：谷保玲奈さん（日本画家）　定員：15名（要予約）

谷保玲奈さん

島根県浜田市の伝統工芸品・石州和紙を使って日本画を描いてみませんか？
和紙にはにじむ紙、にじまない紙、また原材料によって描き心地が変わります。日本画の美しい色彩を使ってにじみやぼかしを活かしながら、みずみずしく夏の身近な植物を描いてみましょう！「石州和紙に描いた日本画展」出品者の谷保玲奈さんがお手伝いします。

「夏の蝶」
「第9回石州和紙に描いた日本画展」出品作品

8/17（土）夏休みこども木工教室

13時～15時　参加費：500円
講師：西田清久さん（木工房きなり）
定員：10名（要予約）

木でつくりたいものをじぶんで考えてきてね！

木にさわって、ながめて、自由な発想で自分の作品をつくってみよう。
木肌を活かしたり、カラフルに色を塗ったり、アイデア次第で面白い作品ができるはず！夏休みの宿題にもバッチリです。

・小学校3年生までは保護者同伴でご参加ください。
・木工教室は屋外で行う予定です。帽子、タオル、飲み物など暑さ対策のできるもの、また工作用に軍手などをお持ちください。

8/18（日）臨床美術ワークショップ「色のアラベスク」

13時～15時　参加費：1人2,000円（2人目以降は1,000円）
講師：島根臨床美術の会　定員：20名（要予約）

金色の絵の具を流して、偶然にできた形を生かしながら、楽しいアート作品を仕上げていきます。だれでも簡単に、五感で感じながら作品づくりを楽しめる「臨床美術」を体験してみませんか？

7/20（土）「鐘築等 僕の似顔絵術」

14時～15時30分　参加費：無料
講師：鐘築 等

7月20日から始まるギャラリー展、鐘築等「の・ような似顔絵店5」に関連し、似顔絵作家の鐘築等さん（出雲市在住）が似顔絵制作についてのこだわりや独自の制作技法について楽しくお話しします。
また、参加者の方も似顔絵の制作体験ができます！

「大谷翔平」

7/21（日）「透明な！サンカクのおさいふ」

講師：モードエモード静　参加費：400円
定員：各回6名（予約優先）

（時間）
①13時30分～
②14時～
③14時30分～
④15時～
⑤15時30分～
（各回30分）

ビニール素材を使い、透明な小銭入れを作ります。型紙に沿ってはさみで切り、ホックボタンをつけて完成。約20分で作れます♪

1辺約10cm

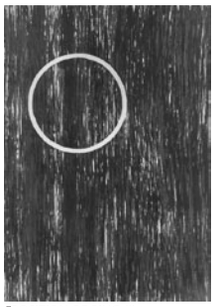
・一部カッターを使う工程がございます。
・予約時にご希望の色をお伝え頂ければ取り置きいたします。クリアー、グレー、ブルー、ピンクの4色からお選び下さい。

お申し込み・お問い合わせ　浜田市立 石正美術館　TEL 0855-32-4388

ギャラリー展示

「山口純寛 版画展 vol.1」（入場無料）

8.7水 → 8.17日　9時～17時
8/12（月）は祝日の為開館、翌日休館


「POSITION OF RING III」
「輪の位置 III」

版画家山口純寛氏のシルクスクリーンによる版画作品を展示します。

【山口純寛（やまぐち すみひろ）】
1979年　多摩美術大学美術学部絵画科（油絵専攻）卒業
1981年　東京芸術大学大学院美術研究科版画専攻（修士課程）修了
現　在　九州産業大学芸術学部美術学科非常勤講師

ギャラリー展示

鐘築 等「の・ような似顔絵店5」

7.20土 → 8.4日
9時～17時（最終日15時まで）
月曜休館
（入場無料）

「黒柳徹子」

当館では 5 回目となる、似顔絵作家・鐘築等さんの似顔絵作品展です。
色紙を切り貼りして表現された有名人たちは、個性的ながらしっかりと特徴をとらえ制作されています。ぜひ会場でお楽しみ下さい。

SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
7			
8			
9			
10			

2019年度 石本正作品選2

7.2 火 → 10.14 月・祝

第9回 石州和紙に描いた日本画展

7.2 火 → 8.18 日

ギャラリー

7.20 土 → 8.4 日
鐘築 等（かねつき ひとし）
「の・ような似顔絵店5」
【入場無料】
最終日 8.4 は 15 時まで

8.7 水 → 8.18 日
「山口純寛 版画展 vol.1」
【入場無料】

ギャラリー利用者＆ミュージアムパフォーマー 大募集中！
詳しくは石正美術館までお問い合わせ下さい！
TEL 0855-32-4388

【ギャラリー利用者募集】
当館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。絵画・写真・書道・立体作品・着物など、様々な作品の展示が可能です。

利用料：1日 2,160 円（税込み）
※利用料金は電気代・什器利用代など含む
※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります

【ミュージアムパフォーマー募集】
当館では開館以来、毎週末にコンサートや創作活動を行ってきました。当館創作室や中庭を発表の場として使ってみませんか？
創作教室の講師をしてくださる方も大歓迎です！

ミュージアムパフォーマンス・創作教室

7.20 土
14 時～15 時 30 分
「鐘築等（かねつき ひとし） 僕の似顔絵術」
講師：鐘築 等
参加無料

7.21 日
①13 時 30 分～
②14 時～
③14 時 30 分～
④15 時～
⑤15 時 30 分～
（各回 30 分）
「透明な！サンカクのおさいふ」
講師：モードエモード静
参加費：400 円
定員：各回 6 名（予約優先）
参加費

「石州和紙に描いた日本画展」関連イベント
8.10 土
13 時～16 時
「石州和紙 × 日本画材で色あそび！」
講師：谷保玲奈さん（日本画家）
参加費：1,000 円
定員：15 名
参加費 要申込み

8.17 土
13 時～15 時
「夏休みこども木工教室」
講師：西田清久さん（木工房きなり）
参加費：500 円
定員：10 名
※小学 3 年生までは保護者同伴でご参加ください。
持ち物：帽子、タオル、飲み物など暑さ対策のできるもの、工作用の軍手など
参加費 要申込み

臨床美術ワークショップ
8.18 日
13 時～15 時
「色のアラベスク」
講師：島根臨床美術の会
参加費：2,000 円（2 人目以降 1,000 円）
定員：20 名
参加費 要申込み

8.19 月 → 8.26 月　展示替休館　CLOSED

2019年度 石本正作品選2

7.2 火 → 10.14 月・祝

2019 碧い石見の芸術祭

第5回 石本正 日本画大賞展

全国美術系大学の優秀作品が一堂に並ぶ最大規模の学生日本画展

8.27 火 → 10.14 月・祝

9.16 月・祝 敬老の日
65歳以上 観覧無料
通常 700 円の観覧料を無料に！
「石本正作品選 2」
「第 5 回 石本正 日本画大賞展」
※年内に 65 歳になられる方（昭和 29 年 12 月 31 日以前に生まれた方）も含みます。
年齢確認できるもの（運転免許証や健康保険証など）をご持参ください。

コンサート
9.23 月・祝
13 時～14 時 30 分
「味曽野（みそのの） 貴由（たかよし）
秋のピアノ＆ギター ソロコンサート」
出演：味曽野貴由さん（群馬県在住）
入場無料

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間　**9：00～17：00**

休 館 日　**月曜日**
〔月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館〕

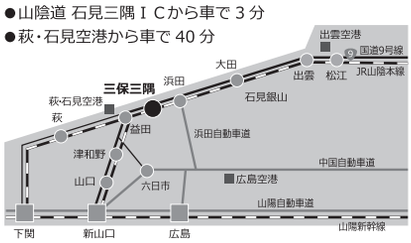
展示替え期間
〔令和１年８月 19 日(月)～８月 26 日(月)〕
〔令和１年 10 月 15 日(火)～ 10 月 21 日(月)〕

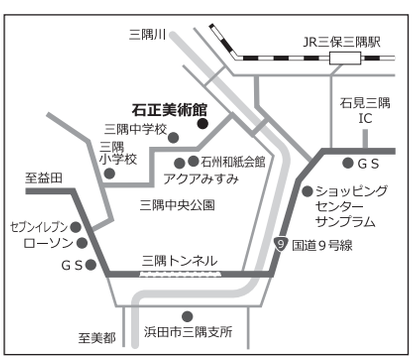
観 覧 料　**一般　700 円（団体 600 円）**
高校・大学生　300 円（240 円）
小・中学生　200 円（160 円）

※２０名以上は団体料金。
※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。
※「しまね家庭の日」毎月第３日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

●最寄駅 三保三隅駅から車で５分
●ＪＲ山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で 20 分
●広島駅から浜田駅まで高速バスで２時間
●浜田自動車道 浜田ＩＣから車で 20 分
●山陰道 石見三隅ＩＣから車で３分
●萩・石見空港から車で 40 分





石正美術館 ミュージアムニュース
アフロディア
No.141
Summer 2019
令和１（2019）年７月 23 日発行
編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589
TEL 0855-32-4388　FAX 0855-32-4389
Eメール　sekisho@mx.miracle.ne.jp
http://www.sekisho-art-museum.jp/
石正美術館　検索
「浜田市立石正美術館」で検索

石正アフロディア サポーター通信

活動報告1
美化活動「ユキヤナギの剪定」「フラワーポットの植替え」

４月23日（火）に、くにびき学園芸科21期卒業生の皆さんのご協力をいただきながら、サポーターの方々と一緒に美化活動を行いました。

春の始めにしだれ桜とともに花の盛りを迎えたユキヤナギ、花も落ち着いたこの時期に毎年剪定を行っていただいています。木々は垣根を超えるほどに大きく育ち、機械を使った作業も一苦労のご様子でしたが、そのユキヤナギも見事にきれいに刈り込んでいただけて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。来年からはもっと作業がしやすいようにできないかなと、検討していきたいと思います。

この他にも、フラワーポットの植替えや華晴苑の草取り、美術館周辺の草刈りを行うことができました。

この日の美化活動ではくにびき学園卒業生の皆さんとサポーター総勢11名のご参加がありました。きれいに整えていただいた庭でゴールデンウィークには、多くのお客様をお迎えすることができました。

ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

活動報告2
「ポスター封入作業」「展示替え作業」

６月11日（火）に、企画展「石本正作品選２」「第９回石州和紙に描いた日本画展」のポスター・チラシ封入作業を行いました。

およそ８００件にもおよぶ封入作業と聞くと大変なように感じますが、実際の作業はポスター・チラシを組み合わせて封筒に入れるという単純作業のため、サポーターの方々も和気あいあいと作業を進めています。最近行って楽しかった旅先の思い出や日々のちょっとしたハプニングなどをお話しながらも、手はしっかり動かしつつ封入作業を行っていました。

この日も初参加の方を含め６名の方がご参加してくださり、休憩時間に入ってもお茶を飲みながら尽きない話に花が咲いていました。

また、６月25日（火）・26日（水）の展示替え作業に３名の方がご参加くださいました。

初日は「石州和紙に描いた日本画展」の作品開梱や石州和紙コーナーに設置するパネル準備などをお手伝いいただきました。２日目になると作品の展示は終了し、作品の額拭きや照明設置をお手伝いくださいました。

展示替え作業は、作品を運ぶなど力作業が多いように思われていますが、額拭きや結界設置などの軽作業も沢山あります。経験がなくても職員が丁寧に指導させていただきますので、ご興味のある方はぜひ一緒に作業してみませんか。

サポーター募集
「できること」を「できるときに」でけっこうです。

広報　美化活動
展示替え　創作活動
研修旅行

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしています。

バックヤード清掃

封入作業